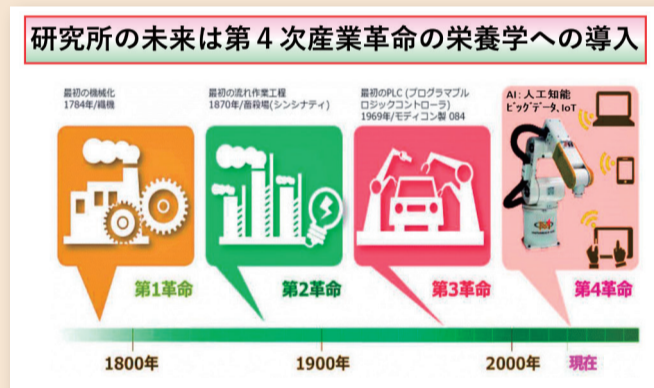


未来に向けた研究所の活動

本研究所はその前身の戦時中から、時代とともに変遷した国民の危機に際して、栄養学上の重要な提案を国民と政府に行ってきました。現在は「人生100年時代」と言われる少子超高齢社会の只中であり、肥満やII型糖尿病などの生活習慣病罹患者と栄養失調や発育不良の人々が共に存在している時代です。また、地球温暖化をはじめとする環境破壊や気候変動による健康問題や、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)などの新しい感染症や増加する多剤耐性菌への対応が求められている時代でもあります。これら世界中の人々が直面している多くの課題に対し、本研究所では国連が掲げている持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)を踏まえた研究活動を続けていきます。そして21世紀は人工知能(Artificial Intelligence:AI)や物のインターネット(Internet of Things:IoT)、スーパーコンピュータやビッグデータに代表される第4次産業革命の時代です。既に遺伝子解析のロボット化で世界に貢献した本研究所は具体的にロボットの教育・研究への導入を試みています。食品の味を基本の五味ごとに数値化する「味覚センサー」や、食生活の乱れと栄養不足、人手不足を改善する最新技術の調理ロボットなどの情報発信を積極的に行っています。

新型コロナウイルスの感染パンデミックを機に、国内外で従来の社会構造、科学技術が大きな変革を受けて情報産業の普及、第4次産業革命は加速しています。21世紀に直面している健康課題と併せて、これらの革新的な技術は人々の暮らしや生活習慣を変え、食と健康に係る職種が置かれる環境や人々との接し方も変わることが予想されます。これからも様々な困難が予想されますが、資源が乏しく、耕地も狭く、災害の多い日本で健康と豊かな生活を維持するのは科学技術であるという信念のもと、所員一同、研究活動に邁進し、社会への情報発信を続けていく所存です。



第4次産業革命の栄養学への導入



第4次産業革命は医学・栄養学にも大きな変革



左：国際栄養学の授業でNative Englishを話すロボットを活用
右：自動調理で活躍が期待される味覚センサーについて説明するロボット(若葉祭で紹介)



第4次産業革命後の雇用について